

令和4年度 第1回 北区入札監視委員会 議事概要

開催日時	令和4年7月4日（月）午後2時から
開催場所	北区役所 第一庁舎3階 庁議室
出席委員	沼田 良委員長、高橋 達朗委員、大竹 雅訓委員
事務局	総務部長、契約管財課長、契約係長、契約係主査
議事概要	<p>開会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 総務部長挨拶 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度下半期 契約締結状況について (2) 令和3年度下半期 審議案件について <ol style="list-style-type: none"> ①制限付一般競争入札（1件） ②指名競争入札（2件） ③随意契約（入札後随意契約）（1件） ④随意契約（特命随意契約）（3件） 4. その他 <p>閉会</p>
審議の対象とした期間	令和3年10月1日から令和4年3月31日まで 328件（内訳：制限付一般競争入札5件、総合評価方式入札1件、希望制指名競争入札115件、指名競争入札62件、随意契約145件）
報告資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入札契約方式別発注総括表 2. 入札契約方式別抽出案件一覧 3. 各審議案件資料 4. 審議案件補足資料、その他資料
審議案件	合計 7件 「入札契約方式別抽出案件一覧」のとおり
主な意見・質問・回答等	別紙のとおり
備考	

令和4年度 第1回 北区入札監視委員会 議事概要 別紙

1. 令和3年度下半期 契約締結状況について
事務局が令和3年度下半期の契約締結状況を報告。
平均落札率は90.9%であった。
2. 令和3年度下半期 審議案件7件について
事務局が資料「入札契約方式別抽出案件一覧」、「審議案件資料」を報告し、
質疑を行った。

(1) 制限付一般競争入札（1件）

①「滝野川第四小学校リノベーション工事」

委員の主な意見・質問等	区の主な回答等
<p>① について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制限付一般競争入札で、失格基準は事前公表しているのか。またその設定はどのように、誰が行っているのか。 ・資格要件を満たしている企業体が入札している訳であり、安価だからと言っていい加減な仕事をするとも思えない。金額が低いから失格というのはいかがなものか。区民目線で見ると、疑問に感じる部分である。 ・失格基準（最低制限価格）以下は不適切という判断になるのか。入札金額差は僅差であり、区民に合理的な説明ができるのか疑問ではある。 ・別途工事として電気設備工事、機械設備工事があり別発注となっているが、分割発注する理由はどこにあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・失格基準（最低制限価格）は非公表である。予定価格の10分の9から10分の7までの範囲で、工事の内容、労務費、材料費等を考慮して契約管財課が定めている。 ・一定の質や水準を確保するためには、基準が必要である。 9,000万円を超える公告などでは、低入札価格調査を採用しており、入札の結果、調査基準を下回り、かつ、失格基準を下回らない価格で入札が行われた場合には、調査を行ったうえで落札すべきことを決定している。 ・ダンピング防止の観点から、一定の基準は必要であろうという認識である。品質確保の観点、下請け業者へのしわ寄せとならないようにという目的により設けている基準であり、そこを下回る価格となると適切とは言い難いところである。 ・一つには、工種ごとに特性が異なるため、発注の専門性が異なるということ。また、工種別に発注することで区内業者に一定の受注機会を確保すること、可能な限り区内業者が受注できるように発注する必要があることから分割発注している。

(2) 指名競争入札 (2件)

②「北とぴあ公衆Wi-Fi環境整備工事」

③「王子小学校外10校35人学級整備に伴う壁掛け型液晶プロジェクター外の購入」

委員の主な意見・質問等	区の主な回答等
<p>②について</p> <ul style="list-style-type: none">・ダンピング防止の視点は理解するが、落札価格が860万円で、609万円の業者が失格となっている。250万円程度の差で、どのような弊害があるのか。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none">・発注予定表の仕様概要に製品指定の記載があり、入札参加者の中にメーカーがいるものの辞退となっている。自社の製品を契約するのに辞退とはどのような理由があるのか。	<ul style="list-style-type: none">・失格基準（最低制限価格）については、予定価格から適正な労務費等を見込んで積算しているため、失格基準を下回った場合、労働者に適正な賃金が支払われないなどの懸念が生じる。・入札参加の希望を出し、指名を受けた後で初めて詳細な発注図書入手することとなる。本件は製品指定品以外にも多数の購入品があるため、自社製品以外の全体を見た上での判断ではないかと推測する。

(3) 随意契約 (入札後随意契約) (1件)

④「滝野川西区民センター自動火災報知設備改修工事」

委員の主な意見・質問等	区の主な回答等
<p>④について</p> <ul style="list-style-type: none">・2回の再度入札の末、当初提示よりも多く金額を下げさせたようであるが、そこまでやらなければならないのか。 <p>・事業者のヒアリングができればよい。</p>	<ul style="list-style-type: none">・最小の経費で最大の効果を得るため、予定価格の積算は厳しく行っているが、入札後に随契交渉を行わせていただくにあたり、無理強いをするようなことは一切していない。交渉がまとまらず、不調となるケースもある。相手に過度な負担はかけず、成立しなかった場合は積算等の見直しを行い、再度、入札するなどしている。・不調打ち切りとなった場合には、事業者のヒアリングも実施する場合がある。事業者は図面や仕様書から見積り、積算を行うが、区の積算と一定の相違が生じることもある。

(4) 随意契約 (特命随意契約) (3件)

⑤「パルスオキシメーターの購入 (緊急調達分)」

⑥「北赤羽船着場補修工事」

⑦「特殊地下壕調査委託」

委員の主な意見・質問等	区の主な回答等
<p>⑤について</p> <ul style="list-style-type: none">・当初1,700台購入し、3,000台を追加して、合計4,700台の購入となると、当初の単価より安くなって然るべきと考えるが、何故同じ単価なのか。価格を下げることの交渉はしたのか。 <p>⑥について</p> <ul style="list-style-type: none">・変更契約の理由となった部品の追加購入について、その金額が妥当であるかどうかの判断はどのようにするのか。・随意契約の場合、癒着の疑念を抱かれるなど、適正性を疑われないように、変更金額も含め説明できるものがあるとよい。 <p>⑦について</p> <ul style="list-style-type: none">・指定理由書の記載に「過去に多くの実績がある」「信頼度の高い調査が可能」とあるが、これらの根拠が乏しく、文面からは拾えない。信頼に足る実績があるとするならば、具体的な数字や件名などの例示があるとよい。	<p>・新型コロナウイルス感染症の急速な拡大に伴い自宅療養者が急増した背景があり、当該品の市場の需要が高まっていた時期である。区としては、区民の命を守ることが最優先であったため、至急、調達する必要があった。同単価でも、購入できることが重要であった。</p> <p>・船着場設置当初からの施工業者が作製する特殊な部品であり、その必要性や価格等については、調査結果や見積もりを基に主管課が判断している。</p> <p>・同等品、他社製品の類似品等との比較、前回の金額などを参考に適正価格を確認している。業者指定理由書の記載については、具体的に記載するよう引き続き努めていく。</p> <p>・都内には防空壕跡が多く、斜面地、崖地に横穴を掘って作っており、民有地等の建て替えの際に発見されることがある。危険性が高いため、緊急性のあるものとして対応した。</p>

審議結果

- ・入札について、概ね適切に執行されていると認められる。
- ・1者入札について、競争の促進という観点から区民等に疑念が抱かれることがないように、可能な限り回避することが望ましい。辞退理由の提出については一定の成果は見られるが、引き続き記載を促しながら、区として更なる創意工夫と対応策の検討をお願いしたい。
- ・随意契約の業者指定理由書の記載について、指定理由や金額の適正性に疑義が生じないように、具体的で分かりやすい記載を徹底していただきたい。
- ・入札における指名数は、発注基準に基づき適正に指名されている。
- ・学校のリノベーション工事などの分割、分離発注の考え方は大変良いものであるため、地域への配慮を引き続きお願いしたい。
- ・入札における失格基準は、品質確保等の観点から一定のラインが必要であることは理解するが、新しくチャレンジしたい業者、新しいビジネスモデルの提案の可能性を消してしまうことは心配である。弾力性を持たせた運用の検討については今後の課題である。
- ・行政の仕事は多様化し、緊急性が増してきている状況にある。随意契約の適正な運用や、事業者ヒアリングによる状況把握など、一層の進化が求められる。